
ボクそしてキミ

アヤノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクそしてキミ

【Nコード】

N4799C

【作者名】

アヤノ

【あらすじ】

人間の心が読める、妖怪、修羅^{シユラ}。人間界での名前は双葉健。女をモノとしか見ることが出来ず、自分の欲望のためだけに女を使う。しかし、同じ妖怪の綺羅^{キラ}が現れ、修羅の人生は大きく変わっていく……。

第一章（前書き）

こんにちは。

この小説を見ていただいてありがとうございます。

こんな小説ですが、頑張って書きました。

評価してくださるのはとても嬉しいのですが、
あまり、作者の気持ちを汚すことはしないよう、
お願い申し上げます。

第一章

俺におぼれる女はいても、

俺がおぼれる女なんていない。

俺には恋愛感情なんてなくて、

ただ欲望を満たすためだけに女というモノがある。

お前だって、俺の道具に過ぎない……

はずだった。

「健」 おはよお。 今日も朝練お疲れ様やなあ」

…… 来よった来よった。 うつとい早苗が。

俺の道具の…… 早苗が。

「ほんまや。 まじで疲れたわ。 今日お前が俺んち来てくれたら
疲れ、とれるやろうけどなあ……」

本心とはまったく別の言葉を軽々と口にする俺。

これを二重人格言うんやるか。

「え……健、何言って……」

「今日さあ、俺んち来んか？」

しどろもどろの早苗に俺は涼しい顔で言う。

早苗だってその表情……うそやる。

分かってんねんど。お前が、めっちゃ今喜んでること。

俺は……心の読める人間……いや、妖怪なんやから。

「……分かった。じゃ、部活終わったら健の家行くから」

「おう」

適当な返事をして、俺は帰っていく早苗の心を読んだ。

【……あいつ、人いじめてんのか？】

俺の頭に広がった光景。

早苗が誰か髪の毛の長い女子を蹴ってる。

頭にバケツの水かけて……

顔はよく見えなかったけど、いじめられてる女子は……

泣いてたと思う。

チッ……

俺、あんなモノに付き合ってたんか。

しかもアレ、なんか俺のこと彼氏や言うて、みんなに自慢しとったし。

……不良品は、捨てなあかな。
だって……いらんやん。

心を読むのをやめて、屋上に向かう。
俺はこのごろ授業に出てない。

俺は高校なんて出れなくてもいい。
どうせ二十歳になったら、
魔界へ戻らなあかんから。

俺がもし人間だったら……
もっと性格よかったかな。

いいや。妖怪でも人間でも一緒や。
女を見てたら、たんすを見てるのと一緒やし。

だから俺は、妖怪に生まれてきてよかったんやな。

屋上で昼寝をしようと横になったとき、
どこかで誰かの泣いている声が聞こえた。

どこにいるんや？

きよろきよろと辺りを見回すと、
……ああ、おったおった。

長い髪の……もしかして早苗にいじめられてた奴？

心を読んだ。読んだらあかんって気がしたけど、
なんか気になって読んでしまった。

そこで聞こえてしまったその女子の心の声。

【ちょっと、双葉 健、またの名を修羅。 なに人の心の中読んで
んの？】

………何???

このタンス…じゃなくて女。

【お前…人の心読めるんか？
もしかしてお前も……？】

でもおかしい。俺みたいな妖怪は…
人間の200倍ほど力が強い。

いつもはかなり手加減してるけど。

この前はかつとなって机を拳でボロボロにしまった。

………なんで虐められてんねん。

【え？ 人間どもの虐めかたってどんなかなあ思って
そっか、コイツ心読めんねんや。

「あんたも当然妖怪やろ。偶然やなあ」

今度は声に出して言われた。

びっくりする。なんでやる。

「お前さ、名前はなんて言うんや？」

俺が問うと、そいつはあきれたようにため息をついた。

「あんた、心読めんなんやろ？」

あ、確かに。

俺は心を読んだ。

【笹村 七海。またの名を、綺羅】
こいつが……綺羅。

「お前が綺羅か。へえ……」

俺がなぜ感心しているのかというと……

魔界では妖怪のレベルというものがある。

そのレベルが2000を越すと、人間界に二十歳までいれる。

俺は魔界でただ一人のレベル10000だ。

そして、もう一人。

レベル9000という奴がいるらしい。

そいつはもう先に人間界へとんでいるという事を父親に言われた。

綺羅の下の奴のレベルはまだ1000もいってない。

つまり、俺らは、自分の父親よりレベルが上なわけ。

魔王様はレベルなんかなくて、魔界を治めてくださってるから、人間界で言う、神のような存在。

人間界と魔界を行き来してるんや。

ここは大阪だから、頑張って関西弁で話してるけど、俺は普通は人間界で言う、東京弁ってやつを使う。

「あんたが妖怪でよかった。
ちよつと話がしたくてね」

綺羅もやっぱり東京弁に戻っている。

「なんだよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4799c/>

ボクそしてキミ

2011年1月9日00時07分発行